

# 貧困とコロナの影響

～フードバンクTAMA 神山 治之 理事長へのインタビュー～

特定非営利活動法人フードバンクTAMA  
理事長 神山 治之

インタビュアー:

弁護士法人ひまわりパートナーズ  
代表社員 古川 健太郎

日時： 令和2年9月11日

方法： リモートインタビュー

古川

今回は、東京八王子南ロータリークラブの先輩である神山さんから、神山さんが理事長を務められているフードバンクTAMAの活動についてお話を伺わせていただきます。2016年9月16日設立ということですが、まずは設立の経緯を教えてくださいませんか。

神山

■ 2009年にロータリークラブに入っ  
■ て、ロータリーの奉仕活動を目の当たりにしました。その中で、ロータリーの奉仕事業は単年度制だったので、奉仕活動というものは継続性がないと駄目ではないか、と漠然と考えだしたのですね。

それでずっと悶々というか、考えていたのですが、ロータリーで奉仕活動について意見交換をした際、先輩から、『日野に面白い男がいるから会ってみてはどうか。』と、2016年にフードバンクTAMA現事務局長の



芝田さんを紹介されました。その頃、芝田さんは、定年退職組の古い友人の方々と、地元は何らかの恩返しをしたいと日野市で貧困問題等の勉強会をされていました。芝田さんたちから熱い思いを聞かせていただいて、「何かしなきゃいけないだよ。」と言うので、「じゃあやればいいじゃない。」と背中を軽く押したのです。

「じゃあ、設立総会するぞ。」ということになり、そこからのスピードは早かったですね。5月に顔を合わせて、6月に設立総会をして、すぐに法人登記して、9月に法人が設立されました。そのとき、私は背中を押しただけで蚊帳の外にいるつもりだったのですが、「あなたに代表をやってほしい」ということで、祭り上げられたというのが現状です。

神山

■ 私たちは一般民間人ですので、お金があるわけではないです。ただ、食品であれば集めて配れば、お金がなくても何とかできるのではないかという考えがありました。



古川

企業の方の食品ロス問題についてはどうですか。

神山

■ 食品ロスもその頃は既に話題になっていましたが、一般民間人がやったとしても、なかなか食品ロス自体をどうこうできるレベルではないと思っていました。ただ、その中でも、余剰があるのならば、そういったものを回してもらえる可能性はあると考えていました。ゴミとして捨てられてしまうよりは、きちんと人さまの身体に入って、ということになったほうがいいのかと。少しでも役立てられればというのと、ただ単に捨てるよりは、フードバンクに出すほうが、企業の方もイメージアップにつながりますので。

古川

設立の際に苦労はありましたか。

神山

■ まず、食品をどこから集めるのか。  
■ また、集めた食品をどこに届けるのかと、そういったつながりが最初はありませんでした。でも、日野市社会福祉協議会から困っている団体や施設

古川

フードバンクというのは、芝田さんが温めていたアイデアということですか。

神山

■ 貧困の方々に何かできないかという  
■ 考えの中で、フードバンクも勉強されていたみたいです。まず食料支援をしていくのがいいだろうという考えで、フードバンクを立ち上げました。

古川

貧困問題については、食料支援が重要だということですね。





を教えてください、まず配るところが確保できそうだとということになりました。

そして、食品をもらうためにどうしようかというところで、メーカーに直接体当たりして、何回もお断りをされながらも、しつこく足を運びました。あとは、ロコミだったり、横のつながりだったり、日野の農家からももらえるようになりまして。また、日野市からは、最初は倉庫がなかったもので、廃校の小学校のプール更衣室を、倉庫として無償で貸していただいたり。そういった意味では、一つ一つピースがはまっていくような感じでした。

**古川** 設立後に体制が整っていったということですね。

**神山** ■ そこからはもうフードドライブで食品集めです。

**古川** フードドライブというのはどういう活動ですか。

**神山** ■ 一般の家庭で、買い過ぎたりとか、お中元、お歳暮のギフトのときにもらい過ぎたりとか、自分の家ではなかなか食べ切れないというものがあれば、それをフードドライブをやる場所に持ってきていただいて、集めさせていただくという活動です。

**古川** 受け入れやすい物があるのですね。

**神山** ■ 缶詰、レトルト、乾麺。パスタもそうですが、やはり一般で、普通の家庭で食べるようなものが良いのと、おかずになりやすいもの、すぐに料理ができるようなものが喜ばれます。最終的にはお米なども欲しいですね。お肉やお魚なども欲しいのですが、それを保管したり、保存したり、そういったことはできませんので、生鮮食品は今のところお預かりすることが難しいです。

**古川** 食品を配るところについては、日野社協の協力を得られたということですね。すけども、どういうところを紹介されたのですか。

**神山** ■ 日野では、自立援助ホーム、これは、児童養護施設を卒園された方をサポートする施設です。あとは、放課後のデイサービス、子どもの学習支援場所の無料塾や、児童養護施設もありますし、子ども食堂もあります。その中で、立川にひとり親の団体がありまして、そのような方々にもサポートを始めました。日野から立川へ、そして町田へ、八王子へというように広まって、現在は63の施設団体をサポートしています。

**古川** お寺で配布されてらっしゃるのも同じ活動ですか。



**神山** ■ そうです。八王子の禅東院様、八幡八雲神社様、両方借りてやっているのは【dattochi(ダットチ)みんなの食堂】ですね。その活動には、フードバンクTAMAから食品をサポートしているのと、子どもたちとも触れ合うという形で、私自身が配布のお手伝いもたまにしています。

**古川** 各ご家庭用に食品を小分けしてお渡しする活動ですね。

**神山** ■ はい。それだけでなく、お弁当を作って配布をすることもあります。

**古川** どれぐらいの頻度で配布活動や、施設にお届けされているのですか。

**神山** ■ 八王子市内は子ども食堂が17ありますが、そのうちの4つ、5つに対して、毎月サポートをしています。それ以外は、在庫があるときに声を掛けて、取りに来てもらうという形でお渡ししています。

日野市内は、日野市役所、日野社協と提携しまして、パントリーという形で配布しています。それは家庭用にお米、パスタ、レトルト、缶詰、お菓子など8キロから10キロを一つの箱に詰めた物を日野市内に、5カ所で5個ずつぐらい、計25個をお届けして、日野市民の方が市役所に相談に行くと、それぞれのところに取りに行くと食品がもらえるという流れになっています。今はニーズがどんどん増えています。

**古川** 日野市役所とも連携が取れていると。

**神山** ■ そうです。ただ、行政からお金をもらって物を買っているわけではなく、あくまでも食品は自分たちで集めています。市役所からは家賃の一部の補助だけもらっているだけで、配布に必要な段ボールなども自分たちで買い集めています。

**古川** 八王子市役所との連携というのはあるのですか。

**神山** ■ 八王子市は秋の補正予算が組まれたので、そこでお預かりしたお金で食品を購入し、施設などに配っています。八王子市のほうも、この後、パントリーを進めていきたいという話が出ているので、いずれ日野市と同じような形ができるといいなどは考えています。



**古川** それだけの食品を集めるというのは大変なことですね。

**神山** ■ そこが大変な点です。このコロナ禍でフードドライブは一切できておりません。ですから、頼みは今まで頂いてきたメーカーへの引き続きのお願いと、ホームページを見て、一般の家庭の方が善意で出していただくというような形です。あとは、今年はいろんなところから補助金を少し獲得できたので、食品を購入して配ったりもしています。

**古川** 賛助会員の募集もされていらっしゃいますけれども、個人会員と法人会員、何名いらっしゃるのでか。



神山

■ 個人会員が22名、法人会員はまだ0名ですが、法人からの寄付は頂いています。私たちがもう少し食欲に、お願いします、と言いつづければいいのかもしれないですけども、無理ない範囲でお付き合いいただけるのが一番いいのかなとは思っています。

古川

フードバンクTAMAは、何人で運営されているのですか。

神山

■ 理事が7、8人。あとボランティアスタッフが10人ぐらいになります。ただ、このコロナ禍で、学生ボランティアから「やりたい」と要望はくるのですが、倉庫の中で箱詰め作業をすると、どうしても密になりやすいので、今はお断りせざるをえません。ですので、今は、実質、私を含めて7、8名で手分けして配っています。ですので、今まで隔週で配っていたのが、週1になったり3日に1回のペースになってしまっています。

古川

それは無償のボランティア活動ということですか。

神山

■ はい。



古川

そのほかにもコロナの影響は出ていますか。

神山

■ フードドライブができないことによって、個人からのバラエティーに富んだ食品が入ってきません。メーカーからですと、単一の物になりやすいので。また、メーカーについては、4月、5月辺りまでは、コロナの影響によって余剰品が多かったのですが、6月以降はやはりメーカーも生産調整されましたので、余剰品が減ってきています。

子ども食堂も6月まではほとんどできなかったのですが、7月、8月からは動きだしてはいますけれども、子どもを呼ぶのはまだまだ敬遠するところもあるので、食品をうまく回すのが難しいです。メーカーからこれは絶対引き取ってくれと言われるときがあるので、頑張っけて引き取るのですが、6月までは子ども食堂が動かなかったりと、持っていくところが若干減ったので、配り切れずに日付を悪くする食品も少しあったりはしました。今は逆に、今後メーカーから出てくるものが足りなくなりそうで…。

古川

八王子市役所で補正予算が付いたということでしたね。

神山

■ 今年の補正予算が付いたというのはいいのですが、今年だけという雰囲気ですね。コロナ禍ということで、行政もフードバンクに少しお金を出そうかっていう流れになったのですが、来年もこのまま行けるのかというと、それは難しい。今後行政とどう上手く付き合っていけばいいのかという心配はあります。



古川

やはり、コロナによって活動がかなり制限されてしまっていて、今後、難しい問題も出てくるかもしれないということですね。

神山

- コロナの影響としては、配布件数が
- 増えたことが一番大きいです。

古川

生活が困窮している方が増えているということですね。

神山

- 今まではひとり親家庭が多かったの
- ですが、最近では大学生も増えています。地方から大学でこっちに来て、コロナで帰れない、バイトができなくなっている。お金が少し足りなくなってきた、食べるものがどうしても少なくなっている。学生だけではなく、20代、30代の非正規雇用者も増えています。あとは单身の方でも、やはり仕事量が減っているの、今までのお給料が取れていない。そのためお金が回らなくなっているというのは、本当に多く目の当たりにしています。

古川

テレビでもフードバンクTAMAが紹介されたということですが(2020年9月10日放映の日本テレビ「スッキリ」)、その関心の高まりは、貧困層が増えているということによるのでしょうか。

神山

- 食品ロス削減推進法もできました
- し、今は追い風が吹いているとは思いますが。だから本当は、今だからこそフードドライブをやって関心を高めたいという思いがあります。

古川

設立から4年経過されていますが、活動継続のモチベーションはどこにあるのですか。



神山

- 初めのときは手探りで、どのような
- 状況になるかも読めなかったです。しかし、1年1年、経過する中で、サポートしてくれるメーカーもそうですが、個人の方も増えてきました。そういった方々から温かい声を掛けていただけるのと同時に、こちらもそれをお預かりしてお届けしていく。皆さんからお預かりしているものですが、お届けした方々から感謝のお声を直接いただくのは私たちじゃないですか。お届けしたときに、感謝の気持ちやお手紙をもらったり等、そういうところでの笑顔をもらったりとか、やってよかったなというのはどんどん積み重なってきたので、モチベーションはまだまだ大丈夫です。ただ、体力的に少しずつつきつくなってくるなということがあります。

古川

少し話が変わりますが、貧困問題といてもピンとこない方もいるような気がします。



神山

よく言われるのですが、貧困の方々は、一見すると目に見えません。今は、ユニクロなどで着る物が安く買えますし、子どもたちは携帯を持っています。持たないと仲間外れにされますから。LINEがないと、友達とも親とも連絡がつかないのです。そういった物にお金をかけなくてはいけない中で、削らなくてはいけないものとなると、食費になってしまいます。食べ物が足りないと集中力も少なくなり、学習や勉強がおろそかになり、貧困の連鎖から抜け出せなくなるのです。

古川

見えないところをぎりぎりで作ってらっしゃる方が結構いるということですね。

神山

いますね。本当は子ども食堂も、そういった子どもたちの居場所として存在してきていますので。子ども食堂を今は中止している団地に食品の配布に行ったりすると、顔見知りの子供たちから「なんで、食堂やらないの?」「早くやろうよ。」「早くやってよ。」といった声を掛けられます。子どもたちとしても、家に帰って誰もいない、1人でずっとそこにいるよりは、子ども食堂に行って友達と少し遊ぶ、おじさんたちと遊ぶ、話をする。心のケアというのですかね、それができてくると思うのです。居場所は大事にしていけないといけないと思います。

古川

色々勉強になりました。本日はありがとうございました。

了

特定非営利活動法人フードバンクTAMA

理事長 神山 治之

#### 略 歴

- 1966年1月 埼玉県富士見市生まれ
- 1985年3月 日本電子専門学校  
情報処理専科卒業
- 1985年4月 株式会社ソフトライン入社  
日本電気情報サービス株式会社  
第二システム事業部  
システム部に出向
- 1994年6月 京晴株式会社入社
- 1999年7月 ハルズ京晴有限会社設立  
取締役就任
- 2009年10月 東京八王子南ロータリークラブ入会
- 2016年9月 特定非営利活動法人フードバンク  
TAMA設立 理事長就任
- 現 在 京晴株式会社社長  
(酒類輸入・卸小売業)  
ハルズ京晴有限会社社長  
(セブン-イレブン南大沢駅前店経営)  
特定非営利活動法人フードバンク  
TAMA理事長  
東京八王子南ロータリークラブ  
第35代会長

▼ フードバンクTAMAの活動についてご興味をお持ちの方は、  
下記 URLよりホームページをご覧ください。

URL:<http://foodbank-tama.com/>

▼ 郵便・食品送付先

〒191-0062

東京都日野市多摩平 2-12-4